

アンケートまとめ

なお、原文の一部、事務局判断にて割愛させていただきました。

1 特別演奏会の感想(企画内容、演奏、運営他)

- ・母校創立120周年の節目に特別演奏会を企画していただけたこと、本当に嬉しかったです。私は参加するだけでしたが、裏方(企画から運営まで)をしていただいた役員の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。お疲れ様でした。本当は定期的に集まれて混声合唱が(女声が集まらないですね。)できれば嬉しいですが…。でもやっぱりもう少し練習日が欲しかった。(私的にはようやくここから曲作り…の段階な気がします)
- ・120周年を記念してこのような企画が実現されたことは素晴らしいことだと思います。大迫力のステージでしたが、箱の広さ(観客収容数)として贅沢な演奏会だったかと。動員力もありそうですし、倍ぐらいの規模での良かったかもしれません。もっとも日付ありきですので。ともかく楽しく歌えました。ステージの緊張感も久しぶりでしたし、先輩後輩との出会い感謝です。
- ・演奏者の年代などバラバラの中で、曲の構成や選曲もとても良いと思いました。
- ・卒業したてから14回生までつながることを実感できる内容でした。
- ・「山に祈る」は難しい曲でしたが、精一杯頑張りました。世代を超えて楽しく、参加して良かった。指揮・ピアノ・ナレーションが良かったので、合唱が引き立ったと思います。
- ・幅広い種類の楽曲があって良かった。少ない練習の中で連絡を徹底していただけたので、スムーズに参加することができた。
- ・指導者の方達のお人柄・ご指導方法が本当に素晴らしく、都度心に染み入りました。
- ・久しぶりに歌って、合唱のすばらしさを感じました。家族も喜んでくれました。
- ・それぞれの時代ごとのステージがあり、良かった。曲数もちょうど良かった。懐かしいメンバーで歌えてうれしかった。
- ・日頃声を出していない者として、発声練習なしのオンステはきつかった。今回の練習も2週間に1度ほど設定しても良かったのでは。
- ・皆さんお忙しい中、メールなどでこまめに連絡をいただき、わかりやすくスケジュールなどもお知らせくださり、ありがとうございます。
- ・プログラムに歌詞が欲しかったです。「山に祈る」はストーリーがあって、歌詞が聞き取れないところを補完できると思います。

(以下、役員より)

- ・予想以上の参加者数で、老若男女バランスよく集まっていただけで大変にありがたかった。コンサートとしての演奏内容、構成などもお客様に喜んでいただける内容であったように思う。
- ・混声、女声、男声、どのステージもとても充実しており、とてもバランスの良いステージ構成だったのではないかと感じました。
- ・企画内容がよかった。カイトにしては意欲的？な楽曲を取り上げたことで表現の幅や演奏会としての特色も出せたのではないかと思います。
- ・演奏の質も高く、アマチュアとしてもハイレベルな音楽的表現を発揮できたのでは。
- ・運営は、役員がそれぞれの役を理解して、有機的に動いたため、スムーズな運営ができたと思います。

- 個人の感想としては、前日やリハーサルで、若手や現役の練習を見学、一緒に練習できること自体が楽しかったです。
- 演奏会でも、わくわくするような気分を久しぶりに味わうことができました。今、終わってみれば夢のような1日だったなあという感想です。
- 演奏会が大成功裏に終了できたことはたいへん喜ばしく私もホッとしています。会長、事務局長、各役員の皆様の努力はそれぞれたいへんなものだったと推察しますが本当にお疲れさまでした。
- 今回の演奏会は合唱班OB・OGの層の厚さを感じ、高齢層・若年層・男声・女声・混声が一堂に会し目的を共有する活動が実現でき、これこそまさにカイトの永続性を確保するためのターニングポイントになったのではないかと思います。
- プログラムも比較的演奏経験者の多い選曲で、限られた練習時間でも完成度を確保できる現実性の高い適切な内容でした。
- 今回の場所についてですが、日程最優先で狭いのを承知の上でリサイタルホールにしたことには今さら異論はなく、結果的に来場者も適度に集約できていたのではないかと思います。
- 客演者について、自然な意識としてはじめはこの演奏会のPRやチケット販売に対して積極的な協力姿勢が見受けられましたが、実際は“大勢の人に来てもらっては困る”演奏会であることを途中から認識され、販促をセーブしていただくような結果となり、ちょっともったいなかったかな、という気持ちです。
- ★全体として上記のような、記念演奏会としての企画、構成には賛同、参加して良かったとの感謝の言葉が多かった。会場の問題は理解しつつも課題としてある。
- ★世代を超えて大勢集まり、関わり合えたこと自体に喜びの声、活動への意義を感じてもらえている。
- ★役員の段取り、連絡等に感謝の言葉が多かった。今後の世代を超えた役員構成、双方向のメールつながり等を充実させ、業務の分担や省力化をさらに進めたい。
- ★練習の持ち方については、年代・性別・仲間との関係、各個人の日頃の合唱活動との関係など、立場の違いが様々なので、よく現状を把握して進めていきたい。
- ★女声の上の年代が女声合唱でなく混声を希望する声がある。(若い世代の選曲とは異なる?)

2 カイトソサエティ運営について

- 演奏会の開催はうんぬんにして、年会費を毎年3000円ほど納入していくシステムにしてはどうでしょうか。
- 現役定演に賛助出演していくことは今後もよろしく願います。都合がつけば出たいと思う。
- ていねいに運営してくださりありがとうございました。
- 年代も幅広く、運営は非常に大変だと思うが、いつも細やかな連絡、ありがとうございます。
- 会員への心配りがとてもありがたいです。
- カイト内の年別(卒年別)の同窓会のような活動をして、同年代の結び付きを助長しては。
- 息の長い活動にしていきたい。
- 私自身、SNSは使っていないので、現在のようなメーリングリスト、部分的クローズ掲示板はありがたいと思います。
- どういうふうに勧誘されているかわからないので、よくわかりません。何も考えずに演奏会に出られたので良いと思います。(66期)
- 今回の演奏会の予定などもう少し早い時期から告知してほしい。(70期)

(以下、役員より)

- メールにより情報が共有できたことが良かったです。体制を整えてくださりありがとうございました。
- 役員の皆さんの尽力に感謝(とてもよい仲間で運営でき、ありがたかった)
- 男声合唱の月1回の練習と、月1回の役員会は効果的だったと感じている。
- 若手の参加が増したのは吉川さんの勧誘による点が大きく、これも感謝。
- 会場の狭さによるチケットコントロールは難しい点であったと思うが、結果的にはうまくいったと感じている(歩留まりを考慮して、限度を多少超えて配布してもよかったかも)事前PRができず、世間一般への事業の周知ができなかったのは残念。
- 若手や現役の距離が一層近くなったと感じてはいるが、この機会を逃さずに若者を運営の中心に引き込み、彼らが主体的に運営をしていくにはどうしたらよいか。
- 誰かが言っていたけれど、思い切って頼りになれそうな、一卒業期(??期)に活動の企画を任せるのが良いと思う。(年配者は、若者の相談には惜しみなく協力するが、口出しはしない。という前提で)
- 客演や指揮者、役員の配置も安定感と挑戦感のある適材適所の人選でした。運営面も各担当者が限られたコミュニケーションの中でよく自分の役割と全体の動きを読み、各自の都合を調整、補完し合い、抜けのない運用をしていただき、特にトラブル等はなかったと思います。
- 会員の協力姿勢もたいへん旺盛で、日常の練習にもよく参加して下さりありがたかったです。“そのほか東京練習の設営に尽力いただいた会員、役員にたいする感謝の言葉あり”
- 今回、会計処理の仕組みを事務局長が作り運用していただいていることは本当によかったです。前と後とでは安心感が倍増しました。
- 10万円とかまとまった金額の場合は、個人立て替えでなく会計係から直接支払えるような仕組みにさせていただけるならさらに助かります。
- ★運営や事務の大変さを気遣い、感謝の言葉が大変多かった。
- ★若手の運営に向けてどのように方向付けていくかカイトの今後重要な課題。
- ★会費の問題は、参加者の固定を測れない会員の意思に基づく社会教育的団体としては大変難しい。どうしたら良いか。
- ★練習をどの程度、どのように設営していくか、特にやや上の女性メンバー、社会に出たばかりの若者、大学生、地元と遠隔地、それぞれの状況やニーズに対応していくのは大きな課題。
- ★若手との連絡体制は今後充実し、本部から直接連絡を取れるよう測りたい。若手の同年代のつながり(lineとか)の活用も検討課題。

3 今後の活動について

- 本当は定期的に集まれて混声合唱が(女声が集まらないですよね。)できれば嬉しいですが…。また何か節目で演奏会をやる！それに向けて何回か集まり練習！という感じでしょうか。あとは現役演奏会への参加。
- 今年は夏いっぱいまで体が空かず行かれませんでした。今後、定期的に演奏会を企画される場合、参加を検討させてください。
- 次回は大きい会場が取れるといいと思います。(66期)同様意見(69期)
- またこのような機会があればぜひ参加したいと思います。(66期)
- 練習が大事と身にしみました。(18期)

- ・今後も可能な範囲で参加させていただきたいと思います。(17期)
- ・今後も定期的に集まる(歌う)機会が欲しいです。(68期) 同様意見(66期)(69期)(70期)
- ・大規模でなくても、OB・OGが集まる機会が増えたら楽しいなと思いました。(69期)
- ・ぜひ2年に一度とかのペースで開催していただけるとありがたい。大変かもしれませんが、もう少し大きなホールで、宣伝などもしてたくさんのお客さんに入っていただきたいです。(68期)
- ・高校のイベントのある毎、何か理由づけをして演奏会を開催してはどうか。(20期)
- ・また女声も合わせて活動に参加させていただきたいです。発表の場も、練習の場もまた設けていただきたいです。(44期)
- ・今回のような OB 演奏会はまた行いたいです。特に「言葉は」「大地讃頌」心が浄化されました。(44期)
- ・合唱班創立〇周年、カイト設立〇周年の特別演奏会等、今後も参加できる機会があれば良いと思います。(24期)
- ・昭和のラジオ歌謡、ロシア民謡を取り上げて欲しい。(17期)
- ・次回はタダタケのアカペラでどうでしょうか。「冬の日の記憶」「中勘助」「わがふるき日の歌」「若しもかの星に」(32期)

(以下、役員より)

- ・定期的な合唱活動を継続したい。
- ・定期的に集まる機会があると良いです。
- ・若手の希望をいかに把握し、実現していくかが今後の課題
- ・当面、1/4のイベントを、いかに魅力的にしていくか皆さんのお知恵を結集したい。
- ・連絡用手段の整備が必要。まだメールアドレスが不明な人が圧倒的に多く情報が行き届いていない。以前やったように、連絡不明者はその代近くの人に教えてもらうことを地道にやっていくか。
- ・資金面での安定化。例:集金の機会を作るためイベントを1回/年は行う等
- ・長野の地域文化を牽引する立場の音楽的レベルが高い合唱団として、カイトの継続活動を期待します。声をかければ合唱経験者がこれだけひとつに集まれる組織なので毎年とは言いませんが2~3年毎に一度位は演奏会が開けるとよいと思います。コンクール等への参加も一案としては賛同します。
- ・“安定と挑戦”はカイトにもまさに当てはまると思います。毎回同様なポピュラーな選曲は確かかもしれませんが、またかという陳腐感があり、無理のない範囲で新曲への挑戦も発展性を感じさせる上で重要と思います。
- ・資金基盤がせい弱で、永続活動をしようとするなら資金確保が大前提でしょう。どうすればよいかは皆で知恵を出し合ひましょう
- ・個人の立て替えに頼らなくても日常運営ができるレベルの組織としての財政基盤の確立と仕組みが求められます。(常時 30 万円位までなら事務局からいつでも支出できる資金基盤確保を！)

4 その他(自由記述)

- ・今回参加させていただけたこと、良かったです。41期は女性が4人(5人中)参加で、同期の仲間と久々に会え、歌えたことも幸せでした。次回の演奏会もぜひ参加したいと思います。(41期)
- ・幸せな時間でした。東京都の距離の隔たりが、回を重ねるごとに縮まったように感じています。(44期)

- 男声合唱団オルフェオンで活動しています。月二回木曜日に三輪公民館で練習しています。団員募集中です。よろしくお願ひします。11月4日には大学OB合唱団で京都の長岡京で歌います。(32期)

(以下、役員より)

- 今回、“楽譜は購入するもの”という文化がカイトでも定着でき、ひとつの大きな成果と思っています。このことは今後も同じです。今回注文した楽譜は10万円を超えていますが現金回収率は100%でした。音楽作品は“演奏されてなんぼ”の世界と思います。現状の著作権の考え方は単に「楽譜のコピーは違法」とかあまりに一面的なものになってしまっていると思います。作品提供者側(作詞・作曲者)がいくら楽譜を出版しても、使用者側(演奏者)に採用されなければ全く世の中に知られ役に立つことはない訳で、この両者の利害がWin-Winになるようなバランスのとれた運用をすべきと私は常々考えています。演奏者はその選曲をし演奏することを決めたからには、楽譜は各自購入するべきです。ただし受注生産とか、練習日までに時間がないとか、制約がある場合はコピーでの代用も認められるのが正当な運用と思っています。
- HPのセキュリティー強化=HTTPSサーバーへ移行したいがお金がかかる
- HPの充実エピソードを募集。→年代ごとに出してもらい、HPで公開
- 若手コーラスGpの継続的な活動をサポートする
- 1か月に1回程度練習を継続し、発表の場を。まずは様子見かな。内容は男声に固定するのではなく、混声も視野に入れたい。

(フォローアップ)

2020.1.7 事務局追記

- ご提案いただいた、ヴォーカルアンサンブルフェスティバルへの出場については、混声と男声合唱の計2団体の出場が決まっております。
- HPのセキュリティー対策は無料でSSLサーバーに移行済み
- 1月4日に、歌会始めおよび祝賀会を開催。練習には、現役班員と50名近くの会員が参集、短時間の練習ではあったがハーモニーを味わう至福の時間であった。